神奈川徐福研究会定例会　2017.10.18

津越由康

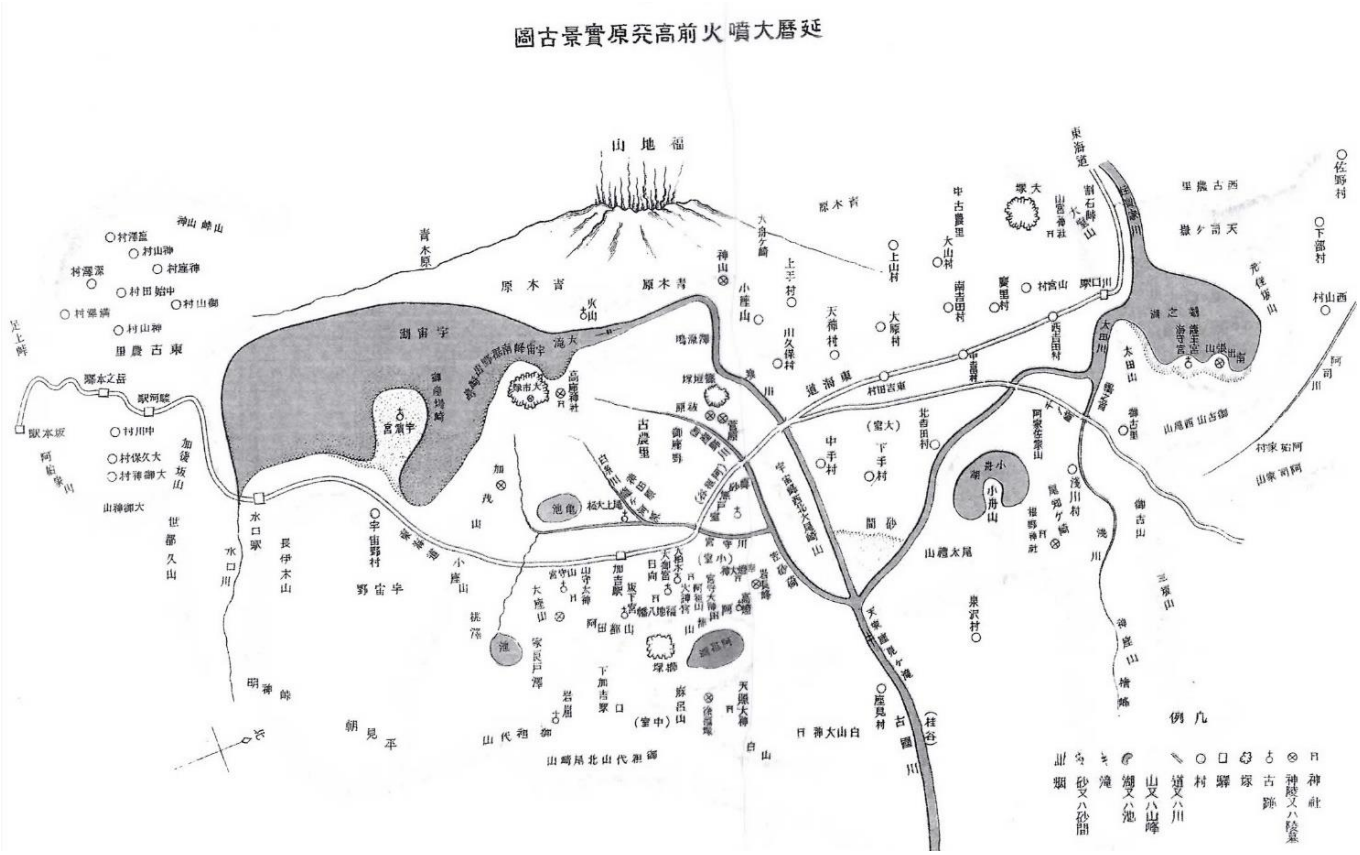
神皇紀に記されている寒川神社について

１、寒川の名

寒川は古代の富士山にあった川の名。　（宇宙湖　→　寒川　→　古国川）→桂川→相模川

現在は溶岩に埋もれて（山中湖→忍野→富士吉田→桂川）となっている。

太田川が尾太礼山の尾崎で、寒川・御座野川と合流して大瀧（天家座見ヶ瀧）となり、瀧尻からは古国川となる。（神皇紀ｐ47 上、「高天原天神七代・国狭槌尊」）



延暦大噴火前高天原実景古図ｐ330

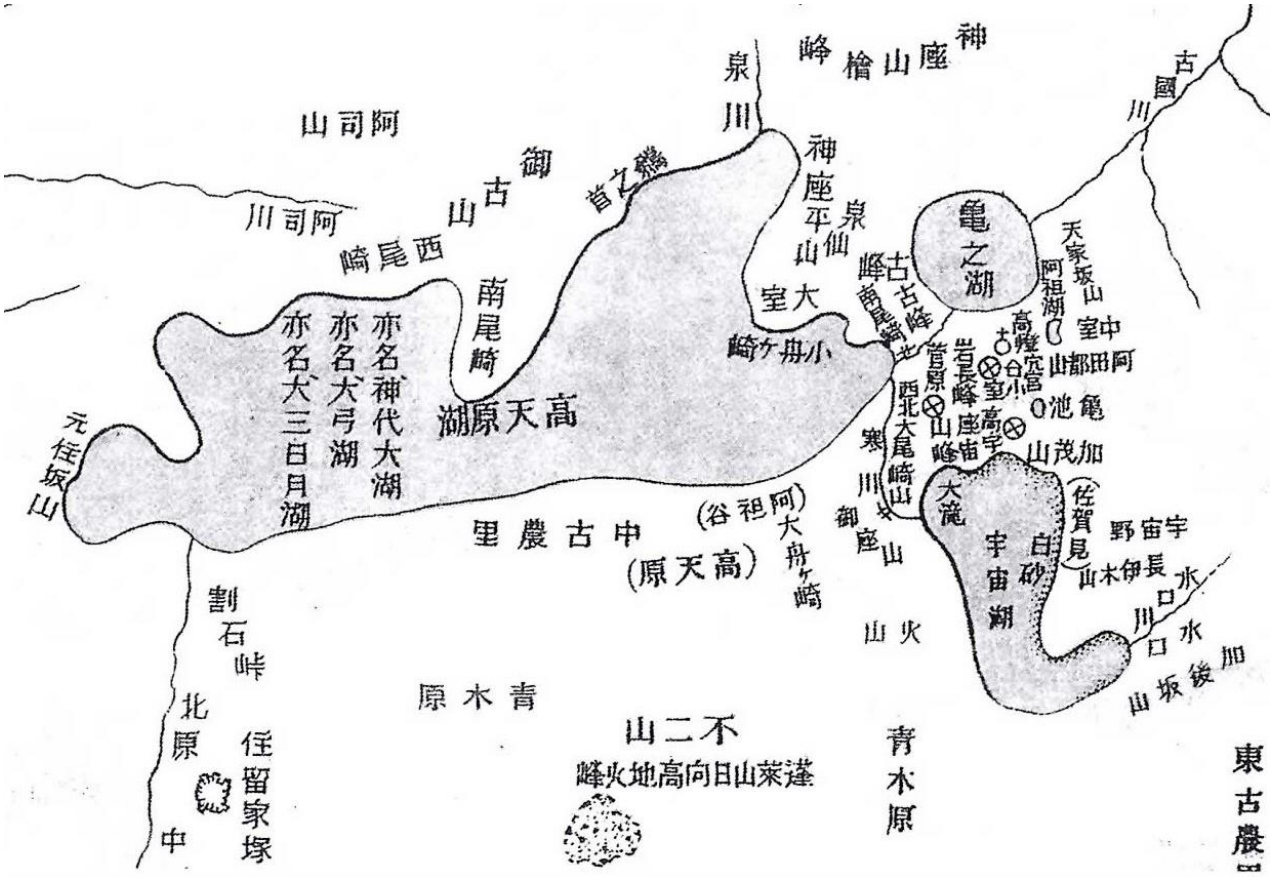
他に、

（人皇１２代景行天皇の時代にも寒川の記述あり。）

４０庚戌年(110)、高天原阿祖山太神宮の副宮守司長・阿祖彦王は・・・神都復旧を企て、謀叛を起こした。皇子日本武尊を遣わし、討ってこれを平らげた。これを東夷征討という。（神皇紀ｐ153 下）

この時、・・・・・、寒川に架した橋々を焼き落し、これを防がせた。（神皇紀ｐ155 上）

（現在の地図との対比）



天神七代高天原略図ｐ326（一部を拡大）

２、寒川毘古命について

（寒川毘古命は月夜見命の第１子で大山祇命である）

月夜見命(ﾂｷﾖﾐ)は、二人(ｲｻﾞﾅｷﾞ・ｲｻﾞﾅﾐ)の尊の第１の皇子で、諱を月峰命(ﾂｷﾐﾈ)という。泥土煮命(ｳｲｼﾞﾆ)の１女月桜田毘女命を娶り、白玉彦命を生む。即ち大山祇命諱は寒川毘古命である。（神皇紀ｐ52 下）

（寒川毘古命は正哉山住命ともいう）

（天照）大御神は、（寒川毘古）命に諱を正哉山住命(ﾏｻﾔﾔﾏｽﾞﾐ)と授け、・・（神皇紀ｐ58 上）

（寒川毘女命は加茂沢毘女命、諱を寒川毘女命、諡を別雷命）

これより先、神后（大山祇命(ｵｵﾔﾏｽﾞﾐ)の２女・阿田都毘女尊(ｱﾀﾂﾋﾒ)・菊里毘女尊）の御父母二柱神（大山祇命）は大いにその遠征を憂い、後を追って伊豆浜にやってきたが、
母の加茂沢毘女命はお体が優れず。遂に亡くなってしまった。寿八〇八千九百日。
伊豆浜に葬る。諱を寒川毘女命という。後、別雷命(ﾜｹｲｶﾂﾞﾁ)と諡した。
この浜は御送り沢と伊豆海と、駿河海との三出張崎の浜であることから、三島浜と称した。
父神の正哉山住命(ﾏｻﾔﾔﾏｽﾞﾐ)は、進んで西に向い、・・・・・遂に神后（娘）に出会い、自分の妻神が亡くなった経緯を語り、涙を流して泣かれた。その時より、妻神を追悼され続け、遂に病に罹り、幾らもしないうちに、私は三島へ行くよと遺言して、亡くなった。
行年九〇十四日。その地に葬る。諱を寒川毘古命という。後、大山祇命と諡した。
（神皇紀ｐ64 下）（**このことから、寒川毘古命と寒川毘女命は三島に葬られたと考えられる**）

３、寒川神社の発祥

（寒川神社のはじまりは）→寒川の菅原に国狭槌尊・国狭比女尊をお祀りしていた

（日子火火出見）尊は、国狭槌尊が、かつて桜山宇宙峰に祀っていた御父母の天之神農氏神・天之神農比女神を祭り、更に高皇産霊神(ﾀｶﾐﾑｽﾋﾞ)・神皇産霊神(ｶﾐﾑｽﾋﾞ)と諡し奉り、この山を高座山と名づけた。又、国狭槌尊・国狭比女尊が鎮座する寒川の菅原を初め、各大御神を祭り、盛大に祭典式を執り行った。（神皇紀ｐ71 上）

（神武）天皇は、中室の麻呂山に鎮座している大日霊貴尊の麻呂山の神廟を祭り、天照大御神と諡し、
次に**加茂山に鎮座している寒川彦命諱正哉山祇、寒川姫命諱加茂沢毘女命の神廟を、山守大神と祭られ、大山祇命、別雷命と諡した。**
・・・且つ**寒川の畔にある菅原に鎮座する国狭槌尊・国狭毘女尊の神廟を寒川大神となし、**又、古峰の根元に鎮座する作田毘古命の神廟を根元野大神として、又、桜山宇津峰に鎮座する高皇産霊神(ﾀｶﾐﾑｽﾋﾞ)・神皇産霊神(ｶﾐﾑｽﾋﾞ)の神廟を高座大神とし各祭典式を行った。
（神皇紀ｐ181 下～ｐ182 上）

（同じく）→寒川の菅原の国狭槌尊・国狭比女尊の神廟を、寒川大神と称す

崇神天皇５戊子年(BC.93)３月、高天原阿祖谷中室の麻呂山より天照大御神を大和国笠縫の里に遷され、・・・・・・。同年六月、菅原に鎮座する国狭槌尊の神廟を寒川大神と称し、不二山を福地山と改めることにした。（神皇紀ｐ169 上）

４、神社の合祀の変遷

（日子火火出見尊の時代、富士の高天原には７つの神廟があった。）

高座の神廟；高皇産霊神と神皇産霊神（天之農作毘古神と天之農作毘女神）
寒川の神廟；国狭槌尊と国狭毘女尊
高燈の神廟；伊弉諾・伊弉冉
麻呂山の神廟；天照大御神
金山の神廟；御父母天孫二柱（天日子火瓊々杵尊（ニニギ）、菊里毘女尊（阿田都毘女）
山守の宮の神廟；外父母大山祇命と別雷命。
根元野の神廟；作田毘古命

（高天原のこの七廟の神霊を合祀して阿祖山太神宮と称した）（神皇紀ｐ175下～ｐ176上）

垂仁天皇３甲午年(BC.27)、駿河・甲斐・相模の三国国境にある山村に、大神宮を分祀した。これを山宮阿祖山神社と称し、元宮を小室阿祖山大神宮と称することにした。（ｐ188）

応神天皇の御世に至り・・・３７丙寅年(306)、・・・そして天照皇太神の麻呂山の古宮を改造して、・・・、又同所に在る徐福の墓の側に宮を建てて徐福神社として祀られた。（ｐ191）
４１庚午年(310)２月、天皇は崩御された。９月、大山守皇子は大神宮の大柏木の下に父天皇の違髪と祖母神功皇后の弓矢とを祀り、**高御久良神社と称した。**

（高御久良神社（祭神は応神天皇と神功皇后か）→高久良神社）

（寒川大神に高久良神社に合祀して、寒川大明神と改称）

崇峻天皇２巳酉年(589)、・・寒川大神を遷宮し高久良神社に合祀して寒川大明神と改称し、

（寒川大明神を福地八幡大神と改称し正一位を賜る）

文武天皇大宝元辛丑年(701)６月１３日、七廟中、寒川大明神を福地八幡大神と改称し正一位を賜り、神領として圭田４８束を賜る（神皇紀ｐ195下）

（阿祖山太神宮を先現太神と改称）

光仁天皇宝亀５甲寅年(774)・・・元宮７廟はわが国でもっとも先に現れた神々なので、惣名阿祖山太神宮を先現太神と改称するよう勅旨を伝えた。これにより後世、先現と浅間の文字を混用するようになった。（神皇紀ｐ196下）

湖之剣
宮守海
中古農里
原木青
（原天高）
宇宙湖
宇宙野村
長伊木村
宮演宇
山地福
東古農里
横走
相模村
相模川原
宮原村
任吉神社
祖司
祖司山
伏峰
明神峰
水加後坂峰
大御神山
久都居川
世久都山
小室
小室山
御祖代
阿座見山
長伊
水口
水口駅
村神御大
村保久大
村川宇
峻河駅
菅沼村
村元野岳
阿始家
阿始家村
村沢塩
村沢深
村田始中
村座御
神子村
桃洞
御山村
大塚
上井出村
大室村
山宮村
日社神宮山
上山村
天神村
大原村
大山村
廣里村
駅口川
南吉田村
中吉田村
東吉田村
中手村
村手上
崎ケ舟
村保久川
山神
山座
山火
大滝
鳥崎出野
高座
高天原
回天
高天原宮
高天原
金山
山家村
山家
根野神社
泉大沢村
泉大沢
仙人沢
東大沢
檜山
檜神座
平座
佐向
日向
湖舟小
天宝
北吉田村
中吉田村
都上郷
都留
都留古
御里
太田川
太田
吉田
川村
浅川
初長山
三山
御古山
御古西尾山
阿司山
阿司家
阿家
幸燈大神
阿泡湖加
駅吉加
山守神社
宇宙野村
山水駅
山水
山座見
山座
山火
山夜加
阿座
小室
小室山
御祖代
山守
岩嶽
白山大神
都留都
都留見
都留中
桂谷
室中
天照天
宮天
天神
雷地八
雷地八幡
泡湖
駅吉加
高天原宮
高天原
高天
回天
金山
山座
山火
山夜加
宇宙野村
長伊木村
宮演宇
山水駅
山水

５、相模の国に避難

（寒川、延暦の大噴火で埋もれる）

延暦１９庚辰年(800)４月、福地山八方数十箇所より噴火し溶岩･熱泥が激しく噴出し、福地山２０里四方が全て焼け埋まり、阿祖谷元宮の先現太神宮は焼失し、山宮の先現神社は４０余丈下に焼け埋まった。・・・・・寒川の河面は上がり横溢した。村落はいずれも熔岩で埋没し、熱泥により焼け失せ、住民は多数焼死した。（神皇紀ｐ198）

（延暦の噴火（800）により東相模国早女郷岡田原に避難し寒川大明神を勘請した）

山宮村の先現神社の神官元宮麿は、難を**甲斐国**に避け、その弟大宮麿は**駿河国**に避難した。翌年、元宮の大神宮の宮守司長即ち大山守皇子２６代の子孫、宮下元大夫元秀は東**相模国**早女郷岡田原に避難した。そこで初めて七廟中より福地八幡大神即ち寒川大明神を勘請した。即ち福地山東元宮寒川神社がこれである。・・・・・・

これよりこの三分社を里宮と称し、太神宮を山宮と称し、各里宮の奥の院とした。

且つ福地山を富士山と改称することにした。（神皇紀ｐ170）

延暦２０辛巳年(801)７月１４日、太神宮の神官等３００余人は、福地山行満寺の出張寺である相模川の東辺、即ち東相模国高座郡早女郷岡田原にある、安楽寺を頼りとし、その地に移住した。　　（注；安楽寺：神奈川県高座郡寒川町岡田 2387、寒川神社南東１㎞にある。養老２年（718）開創。境内に大(応)神塚という前方後円墳がある）

３００余人とは大宮司宮下源大夫元秀と一族郎党１１１人。・・・（神皇紀ｐ201）

翌２１壬午年(802)正月宮殿を造営して**福地山小室元宮七廟惣名先現太神宮の福地八幡大神宮より寒川大明神を分離し移して祀った。**

第１国狭槌命、第２寒川毘古命諡大山祗命、寒川毘女命諡別雷命、第３阿田都菊里毘女尊諡木花咲耶毘女尊、第４誉田別尊、小沢毘女命を祭神とした。

大日本第一の神山福地山より移し祀った宮であることによってその地を神山村と名付けた。その後早女郷を寒川郷とし、神山村を宮山村と改めた。・・・（神皇紀ｐ201）

（古文書も寒川に避難）

徐福伝・寒川日記・その他の古文書、宝物を保護して相模の国高座郡早女郷岡田の原という元大山守皇子の旧領地に避難した。又、その地に社祠を建てて七廟中より寒川神社を迎え祭り、傍らに宝蔵を建て守り持って来た古文書宝物を収めた。（神皇紀ｐ244）

６、高天原元宮七廟（通称阿祖山太神宮）の再興

平城天皇大同元丙戌年(806)６月、七廟中、焼失した４座を再興し、**これより七廟の太神宮を山宮と称し相模の国寒川神社を里宮と言う。**

二条天皇永暦２辛巳年(1161)３月、大宮司宮下記太夫政仁は**源氏の落人である三浦**義顕の長男、源甚吾重成を養子とし、・・・山宮の大宮司を譲った。これを第４９代**宮下源太夫義仁**と言う。これから政仁は相模国に帰り、里宮の宮司となり古文書宝物を保護した。山宮大宮司宮下源太夫**義仁は、しばしば里宮に来て徐福伝や寒川日記、その他の古文書の残った文章を十数年間に亘り書き写し、これを山宮七廟の宝物とした。**（神皇紀ｐ245 上）

７、相模川氾濫

弘安５壬午年(1282)５月１３日、馬入川が氾濫し、沿岸は一物も残さず皆押流された。
相模国にある富士山東本宮寒川神社の宝蔵は、そのため流失しそうになった。
里宮の宮司である宮下記太夫明吉は、父国明と共に宝蔵に秘蔵した太古よりの古文書、即ち徐福伝、列聖の勅状、代々の大宮司が筆記した寒川日記録などを救出しようとして、父子共に溺死した。（神皇紀ｐ234 上）
弘安５壬午年(1282)５月１３日、馬入河が氾濫し里宮に保存していた**古文書が悉く流失**した。（神皇紀ｐ245）

８、徐福との関係

（徐福とその子孫が記録し、古文書を継承）

孝霊天皇は５０庚申年(BC.241)４月、・・・、秦の徐福が日本に来て、不二山高天原に上り中室に居住して留まった。

やがて、神祇（神に仕える人）の子孫等に就き神代の事績を記録して後世に伝えた。
これを十二史談、又は徐福伝という。阿祖山太神宮の宝物として宝蔵に収納した。
以来、・・・子孫がこれを継承して６７代、1,395 年の間、古文書を保護して来た。そして代々の大宮司は太神宮に関し日記を作成した。これを寒川日記と称する。（神皇紀ｐ244）

（徐福の墓と徐福神社は中室の麻呂山にあった）

人皇八代孝元天皇７癸巳年(BC.208)２月８日、秦徐福は高天原中室で逝去。
中室麻呂山の峰に葬られた。
文字を教え、各種職業を伝え、特に神代からの事跡を後世に伝えるもので、その功績は偉大であるから当時の人はその徳を讃え天地神のように徐福を祀った。（神皇紀ｐ270 上）
３７丙寅年(306)６月１０日、武内宿祢を勅使として三国第一の山と書かれた勅額(天皇直筆の額)及び神功皇后の弓矢を大山守皇子に賜れた。そして天照皇太神の麻呂山の古宮を改造して、これに御祖代山にある皇太神の奥宮を合祀された。
又同所に在る徐福の墓の側に宮を建てて徐福神社として祀られた。・・・・(神皇紀ｐ191 下)

（徐福３０代の子孫、福岡萬七太徐教が寒川神社の神官になった）

桓武天皇延暦１９年(800)富士山が大噴火した。元宮七廟総名阿祖山太神宮の大宮司減太夫元秀は禰宣祝を始め、福岡萬七太徐教（徐福 30 代）と共に、徐福伝・寒川日記・その他の古文書及び宝物を擁護して相模国高座郡早女郷岡田原に避難した。
寒川神社の傍に宝蔵を造営して持って来た古文書・宝物を納めた。以後、福岡徐教は、その地に居住し同神社の神官になり、宮司と共に代々、古文書を保護した。（神皇紀ｐ274）

９、神皇紀に記されている寒川神社についてのまとめ

①もともと富士山にあった寒川神社の御祭神は国狭槌尊・国狭比女尊であった。
②延暦富士山大噴火（800）により、高座郡岡田に避難して勧請したとき
　御祭神に、大山祇命、別雷命、木花咲耶毘女尊、応神天皇、小沢毘女命が追加された。
③寒川比古命は大山祇命、寒川比女命は別雷命である。
④寒川神社に徐福が祀られている、という記述は見つからない。

以上、神皇紀の記述です。